

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2005～2008

課題番号：17530154

研究課題名 (和文) 平等な市場経済の制度的条件に関する経済学的研究

研究課題名 (英文) Some historical thoughts on equality in a market economy

研究代表者

新村 聡 (NIIMURA SATOSHI)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：00167561

研究成果の概要：

近年の世界的な格差拡大を背景として、平等と不平等に関する思想史的研究が進展している。本研究は、アリストテレス、D. ヒューム、A. スミス、K. マルクス、A. センなどの代表的な平等主義思想を比較考察して、それらに共通する論理構造を分析した。その結果、アリストテレスの分配的正義論における比例的平等の思想（価値に比例した分配）が上記の思想家の平等論に継承されていることを確認した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	1,000,000	0	1,000,000
2006 年度	800,000	0	800,000
2007 年度	800,000	240,000	1,040,000
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,400,000	480,000	3,880,000

研究分野：経済学史

科研費の分科・細目：経済学，経済学説・経済思想

キーワード：平等、格差

## 1. 研究開始当初の背景

近年の日本と世界における経済格差の急速な拡大を背景として、平等と不平等に関するさまざまな思想的・理論的・実証的研究が進展している。しかし平等主義の思想史的研究においては、さまざまな思想史家の平等主義

思想が個別的に研究される一方で、それらに共通する問題構成や論理構造を解明する研究はほとんどなされていない。

また平等主義をめぐる思想史的研究は哲学史・政治思想史・経済思想史などの各領域に分かれており、それらの総合を意図した研究

も非常に少ない。

## 2. 研究の目的

そこで本研究では、古代から近代までに登場した代表的思想家の平等主義思想の問題構成と論理構造を分析し比較することを通じて、さまざまな平等主義思想に共通する論理構造を解明すること、さらに哲学史・政治思想史・経済思想史などの諸分野の研究成果を可能な限り総合することを研究目的とした。

## 3. 研究の方法

上記の研究目的を達成するために、本研究は、古代のプラトン、アリストテレス、近代のD. ヒューム、A. スミス、K. マルクス、さらに現代のJ. M. ケインズ、A. センなどを中心にして、歴史上の主要な平等主義思想の問題構成と論理構造を分析し、それらを比較考察した。

とくに平等の思想的基礎づけに関して、哲学的・非帰結主義的な論理と経済学的・帰結主義的な論理とを区別し、さらに後者については供給サイドと需要サイドとを明確に区別した上で、それぞれについて考察した。

## 4. 研究成果

(1) 平等の哲学的・非帰結主義的な基礎づけに関しては、古代アリストテレスの平等論における基本論理とりわけ分配的正義論における比例的平等の思想(価値に比例した分配)が、近代の自然法思想、スミス、福祉国家思想、マルクス、センなどに強固な思想的伝統として継承されていることを確認した。

(2) 平等の経済学的・帰結主義的な基礎づけに関しては、機会および所得の平等がもたらす経

済的帰結の供給サイドからの考察(勤労意欲の増進、労働生産性と経済成長率の上昇など)と、需要サイドからの考察(消費需要の拡大、投資の促進など)の両面において、18世紀の重商主義とスミスにおける高賃金の経済論が現代まで継承されていることを確認した。

(3) 平等主義思想の歴史的伝統と、現代日本の社会保障制度(年金、医療、介護など)の思想的・哲学的基礎との間に、重要な関連があることを確認した。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計1件)

① 新村聡、平等と不平等の経済学—新自由主義的「平等」と福祉国家的「平等」の対立、季刊経済理論、査読有、第43巻第1号、2006年、pp. 26-35。

[学会発表] (計8件)

① 新村聡、アダム・スミスにおける貧困と福祉の経済思想、経済学史学会第72回大会、2008年5月25日、松山:愛媛大学。

② 新村聡、人間発達と自由・平等との関連について、基礎経済科学研究所第30回研究大会、2007年9月23日、大阪:大阪経済産業大学。

③ 新村聡、K. マルクスとA. センの不平等論と人間発達論、人間発達の経済学国際研究討論集会、2007年3月22日、中国:南京師範大学。

④ 新村聡、マルクスの不平等批判の方法、経済理論学会第54回大会、2006年10月21日、名古屋:愛知大学。

⑤新村聡、マルクスとセンの不平等論、経済学史学会第70回大会、2006年5月27日、横浜:神奈川大学。

⑥新村聡、平等と不平等の経済学—新自由主義的「平等」と福祉国家的「平等」の対立、経済理論学会第53回大会、2005年10月、東京:大東文化大学。

⑦Satoshi NIIMURA, Inequality and Economic Development in Adam Smith, History of Economics Society Conference, July, 2005, USA, Tacoma.

⑧新村聡、ヒュームとスミスにおける経済発展と不平等、経済学史学会第69回大会、2005年5月29日、大阪:大阪産業大学。

[図書] (計3件)

①新村聡編著、介護福祉のための経済学、弘文堂、2008年、新村聡分担執筆、第1章 経済とは何か、福祉とは何か、pp. 56-68、第7章 福祉は景気をよくするか、pp. 141-155、第8章 福祉は成長にマイナスか、pp. 156-171。

②平井俊顕編著、市場社会とは何か、上智大学出版、2007年、第2章、新村聡、経済発展と不平等—ヒュームとスミス、pp. 25-44。

③介護福祉思想研究会編、介護福祉思想の探求—介護の心のあり方を考える、ミネルヴァ書房、2006年、新村聡、介護福祉の経済思想—アダム・スミスを中心に、pp. 220-234。

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

新村 聡 (NIIMURA SATOSHI)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号: 00167561

(3) 連携研究者